

法政大学大原社会問題研究所

# 所 報

(2021.12.1 ~ 12.31)

## □刊行物

『大原社会問題研究所雑誌』759号(2022年1月)

## □図書受入

	和 書	洋 書	計
購 入	39	23	62
受 贈	38	23	61
合 計	77	46	123

## □閲覧サービス

### 閲覧

開館日数	18日
閲覧者数	10名
貸出図書	45冊

### コピーサービス

学外	9件	536枚
学内	1件	19枚

## 日 誌

- 1日 事務職員の部分的テレワーク継続(～31日)  
所員会議(オンライン)  
事務会議(オンライン)
- 7日 貴重書庫・戦前書庫除塵作業(埼玉福祉会)(～9日)
- 10日 来所：ナカシャクリエティブ株式会社(産児制限資料撮影打ち合わせ, 対応：中村)  
第13回大原社研シネマ・フォーラム オンライン連続上映会  
第2回『代理出産—繁殖階級の女?』(解説：柳原良江(東京電機大学准教授, 代理出産を問い直す会代表)(参加者：87名)  
第8回公害資料館連携フォーラム in 長崎(於：長崎大学, 参加：山本, 宇野, 加藤, オンライン参加：長谷川, 川田)(～12日)
- 15日 運営委員会(オンライン)  
議題①2022年度の研究所体制について  
②2021年度大原社研研究所叢書について  
③兼任研究員の公募について

来所：(株)WAVE(研究所Webサイト打ち合わせ, 出席：鈴木所長, 藤原, 内藤, 野々村, 菊地, 川面, 中村)

- 19日 大原社会政策研究会(第89回)(オンライン&市ヶ谷キャンパス ボアソナード・タワー会議室)  
新川綾子(日本福祉大学福祉経営学部助教)  
「総力戦体制下における工場医局と工場労働者——鐘紡工場医会を中心に」
- 21日 地下書庫, 組合大会資料移動(埼玉福祉会)(～23日)
- 24日 専門嘱託(アーキビスト, 環境アーカイブズ)公募開始(～1月31日)
- 24日 月例研究会(オンライン)  
金子龍司(嘱託研究員)「昭和期新聞投書者の「優等生」——川口市の一主婦と投書」
- 27日 冬期休業(～1月6日)

## 大原社会問題研究所雑誌

No.762(2022年4月号)

2022年4月1日発行

定価1,018円(本体926円+税10%)

年間購読12,000円(税込)

編集(兼)発行人 法政大学大原社会問題研究所

編集長 藤原千沙

所 長 布川日佐史

〒194-0298 東京都町田市相原町4342

電話042(783)2305

印刷 株式会社相模プリント

# 投稿募集

『大原社会問題研究所雑誌』は、社会労働問題に関する学術研究雑誌で、「論文」「資料紹介」「調査報告」の投稿を受け付けております。下記の投稿規程と執筆要領に基づいてご投稿ください。規程と要領に沿わない原稿は受理できません。[2019.10.1 改定]

## 投稿規程

1. 投稿原稿はワープロ・パソコン作成による未発表のものに限ります。
2. 投稿原稿の分量は、原則 20,000 字以内（図表・スペースを含む）です。
3. 投稿原稿は、審査用原稿となりますので、本文や注などで執筆者が特定される記述をしないでください。1 ページ目は、原稿の題目に続けて無記名で本文に入ってください。
4. 原稿の採否は、本誌編集委員会が指定する審査員の査読を経て、本誌編集委員会が決定します。「論文」は審査の結果、「研究ノート」となることがあります。
5. 掲載原稿には、掲載誌 2 冊と抜刷 30 部をさしあげます。
6. 投稿者は、次の各 3 部を下記宛てに郵送してください。

A：投稿原稿（審査用原稿）

B：投稿原稿の要旨（1,000 字程度）

C：表題紙

C の表題紙に記載する事項は、投稿原稿の、①題名、②目次、③分量（図表を除く文字数（スペースを含める））、④図表の有無と数、⑤著者の氏名（よみがなを併記）、⑥肩書き（所属・職名、大学の場合は学部等まで）、⑦略歴、⑧連絡先（郵便番号、住所、電話番号、電子メールアドレス）です。

7. 投稿者は、投稿原稿の郵送後、B：投稿原稿の要旨、C：表題紙を、下記宛てに電子メール（もしくは FAX）で送信してください。件名は【投稿(お名前)】としてください。

『大原社会問題研究所雑誌』編集委員会宛

【郵送先】〒194-0298 東京都町田市相原町 4342 法政大学大原社会問題研究所

【メールアドレス】ohara-journal@hosei.ac.jp 【FAX】042-783-2311

## 投稿原稿 執筆要領

1. A 4 判の横書き、40 字×40 行、下部にページ数を付し、白黒・片面で印刷する。
2. 原則として、数字は算用数字、句読点は「、」と「。」を用いる。
3. 本文の各節には「.」のない 1 2 …を用いる。
4. ワードプロソフトによる脚注の挿入機能は使用してよい。
5. 図表は、白黒印刷できるものを提出する。本文には余白に【表 1】等と挿入場所を指定し、図表そのものは別紙に一括し、通し番号をつける。図表の文字換算数は定めないが、審査にあたっては、図表の大きさで全体の分量を概算する。
6. 参考文献は、著者名・発行年・論文名・雑誌名（書籍名）・巻号（出版社）・雑誌の場合は頁数を記述し、著者名（姓）のアルファベット順または五十音順に記載する。ただし他の記載方法も可とする。

### 【記載例】

榎一江（2017）「近代日本のパターナリズムと福利施設」『大原社会問題研究所雑誌』705 号、29-43 頁。

原伸子（2015）「イギリスにおける福祉改革と子どもの貧困——「第三の道」と社会的投資アプローチ」原伸子・岩田美香・宮島喬編『現代社会と子どもの貧困——福祉・労働の視点から』大月書店。

Suzuki, Akira（2016）“Japanese Labour Unions and Nuclear Energy: A Historical Analysis of Their Ideologies and Worldviews,” *Journal of Contemporary Asia*, Vol.46, No.4, 591-613.